

医療連携につきましては、日頃よりご協力いただき、誠にありがとうございます。

▷第30回和GO懇話会

令和 5 年 10 月 1 日（水）大手門パルズで、「第 30 回和GO懇話会」を開催しました。また、懇話会終了後に 4 年ぶりとなる情報交換会を行い、さまざまな情報交換・共有をさせていただきました。

お忙しい中、関係医療機関の先生方にご参集いただき有意義に開催されましたことに、厚く御礼申し上げます。

一般演題

『糖尿病内科の取り組みについて』

演者：糖尿病内科部長 岡村 将史 医師（写真左）

座長：武田内科胃腸科医院 院長 武田 義雄 先生（写真右）



昨今、「糖尿病」という呼称に多くの患者が疎外感や恥ずかしさを感じていることが問題視されています。そのため、差別的用語とならないよう見直す機運が高まっており、新たな呼称案の有力候補として「ダイアベティス」が提案されています。

2 型糖尿病と診断された人における脂肪肝率は約 60%で、糖尿病患者は肝臓癌の発病リスクが最も高いと報告されており、NAFLD（非アルコール性脂肪性肝疾患）/NASH（非アルコール性脂肪肝炎）の診療ガイドラインに沿い治療が行われています。当院においては、肝疾患の早期治療のために 2018 年から早期のスクリーニングを開始し早期発見に取り組んでいます。講演では当院で行われた投薬治療やインスリンポンプ導入について症例をもとに紹介され、当院の糖尿病治療についてお話をいただきました。

特別講演

『糖尿病の新しい薬物治療とチーム医療』

演者：東北医科薬科大学医学部内科学第二（糖尿病代謝内科）

教授 澤田 正二郎 先生（写真左）

座長：副院長・整形外科部長 椿野 巧 医師（写真右）



糖尿病患者は年々増加していますが、糖尿病患者の合併症発症の割合はこの 20 年間で減少し、糖尿病による死亡数も減少していることから、糖尿病治療が発展していることがわかります。糖尿病治療薬は複数の種類がありますが、DPP4 阻害薬、SGT2 阻害薬などの使用が増えており、患者の状況によって適合する薬剤が選定されます。今年発売された GIP/GLP-1 受容体作動薬（マンジャロ）は週 1 回の皮下注で治療効果も大きいことなどから世界的に使用されており、供給制限が出るほどになっています。1921 年に発見され、20 世紀最大の医薬品の発明と言われているインスリンは、新たな治療薬も次々と開発されており、インスリンポンプで適切な血糖管理が可能な時代になるなど、今後もさらなる糖尿病治療の発展が期待されています。

糖尿病治療の目標は、糖尿病患者であってもそうでない人と同じように過ごせるようになることです。治療をうまく進めるには患者自身がどうすべきか考える必要があり、セルフケア行動を起こすこと、行動変容の必要があります。それに加えてチーム医療が重要となり、医師だけではなく多職種が連携し、役割分担をしながら治療に臨むことが望ましいとされています。東北医科薬科大学においては、臨床心理士が患者の精神的なケアや他の職種では切り込みにくい部分を担っており、講演では実際の各職種の役割や連携、チーム医療の重要性を解説していただきました。このたびは、近年身近にある疾病となった糖尿病について、その知識を深める貴重な機会となりました。ご講演をいただき誠にありがとうございました。

今後も地域医療の発展のため、先生方の御要望をお聞きしながら尚一層の努力を重ねて参ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

